

# 北上運河が逆流、人や車が！ 足がガタガタ震えた

国土交通省  
管運職ニキニキニキニキ

NO. 245  
2015. 3. 11

発行 国土交通省管理職  
ユニオン  
所在地 東京都千代田区霞ヶ  
関 2-1-2 中央合同庁  
舎 2号館  
TEL 03-3509-1138  
Eメール  
k-union@alpha.ocn.  
ne.jp  
ホームページ  
http://www7.ocn.  
ne.jp/~k-union

4年前の今日、東日本大震災が発生しました。ユニオン教宣部は、当時石巻国道維持出張所長であり、震災の当日よりその復旧・復興の最前線に立たされてきた現東北支部大槻専従副委員長に4年前を振り返っていただきました。

## ■あの日 足がガタガタ震え怖かった

あれから4年が経つが今も鮮明に憶えている。その日、私は石巻国道維持出張所長で定年1年前だった。3月11日(金)、午後2時46分。M9.0最大震度7の巨大地震が発生した。そしてテレビを見ると巨大津波が、出張所前の北上運河を逆流し、タイヤや車と共に流されていく。「助けてくれ」。何もできなかった。足がガタガタ震えた。怖かった。石巻市内中心部は津波に襲われガレキと化した。



東北大槻専従副委員長

## ■震災発生時のこと・五つの決意

ユニオンの名に恥じないよう頑張る。出張所には職員と業務委託者あわせて11人いたが全員無事だった。「これから先は大変な作業が長く続く」「全員の安全や健康管理が一番」「自分の兄弟、息子、娘のように守ろう」という決心した。具体的には①これからの業務は安全を第一優先にする。②上部機関からの安全無視の命令は断る。③勇み足はしない。④怒鳴ったり危険な指示はしない。⑤何でも言える環境をつくる。災害対応時に必ず発生する組織内リスクの回避である。出張所長の肩書きでは弱い、「ユニオンの名に恥じないよう頑張る」はその決意の表れである。(ユニオンニュースNO.167号(2011.3.16))

## ■東北地方整備局の課題は

東北地方整備局は、負傷者の救命・救済物資の輸送のため「くしりの歯」や「防炎ヘリ」の活躍が戦後「急進」等の報道が後「急進」等の報道が新聞・テレビ等の報道が大きな評価を受けた。しかし労働組合の立場として、問題があるの指摘しておく。第1点は、大震災は勤務時間内に発生したことがある意味幸運だった。夜間・休日等で職員不在の場合の方針を検討する必要がある、増員による体制強化を図るべきである。第2点は、「くしりの歯」も「防炎ヘリ」も防炎官庁として、当たり前のことと思っている人は多い。第3点は、職員・作業員の安全管理が不十分な問題である。大津波警報が解除されない中での啓蒙作業と、福島第一原発事故による避難指示及び



(震災二日後日和山より石巻市内を臨む大槻氏撮影)



被災直後の気仙沼国道維持出張所

健康・管理は、健全な安全管理を優先する。第4点は、災害対策本部(本局)における、冷静沈着な指揮・命令が行われたのか検証をすべきである。政治家、本省からのような指示なり要請があったのか。それを受けて指揮官がどう判断し結論を出したのか。これが一番大切な記録なのである。災害対策室は「戦場と化し」「上位下達」が常態化する。改善すべきことはあるに違いない。是非公開して欲しいものである。第5点は、「船頭多くなる」。この20年間の職員数は、厳しい定員削減の中であって事務所が61名も増えて事務所出張回数も大きく減っている。今回の未曽有の被害をもたらし、大震災の教訓から、事務所出張所を疑増員しないのか大きな疑問がある。

## ■大震災から4年、東北地方整備局で何が起きているか

東北地方整備局では、平成25年度から現在ま

の間「15名の在職死亡」があり、通年倍以上である。年代別には30歳代2名、40歳代8名、50歳代5名。死亡は大震災から2年、3年経過しており、震災関連死や力口死ではと想像されるものもある。また、パワハラも発生している。職員の命と健康を守り、明るく働きやすい職場が強く求められている。

## ■人を大切に、原発廃止で豊かな国土を

組織は人であるが、「上司は部下を支え」「部下は上司を信頼」そうした関係の構築こそ最も必要なことでは無いだろうか。そして、復興は多くの課題が山積している。いつ終わるのか分からない状況となっている。国民の生命と財産を守るには、これまでの防災だけでは不十分で、原発廃止で安全安心な豊かな国土をつくるのが真の復興ではないだろうか。そう強く思う4年である。

